

- 1 挨拶に拳合はする桜かな
- 2 濃く淹れてモカ珈琲や朝桜
- 3 咲きみちて桜くるしくなりにけり
- 4 ことばより人のはかなき桜かな
- 5 いつせいに椅子の引かるる桜かな
- 6 花の木の虚むらさきの邪鬼棲むか
- 7 花散るや砂場の砂の城のうへ
- 8 砂場の砂すくへば落花まじりをり
- 9 鉄串（かなぐし）に肉片貫（ぬ）ける残花かな
- 10 灰皿の玻璃ぶ厚しよ花過ぎぬ
- 11 掌中に落椿あり冷たかり
- 12 春の闇ほのかに甘し舌出せば
- 13 春月にししむらの色ありにけり
- 14 地球啖はば塩味ならむ春ゆふべ
- 15 春野ゆく曲馬団しんがりはシェパード
- 16 生ひ初めていちやう若葉や漏斗状
- 17 つかふ言葉にいちやう若葉の手ざはりあれ
- 18 みどりの夜紙に活字の喰ひ込める
- 19 見上ぐれば新樹に冥きひとところ
- 20 金環蝕果つほたるぶくろの中は留守
- 21 総菜屋白く灯（ひとも）る梅雨入かな
- 22 木曾三川黝さたがへて梅雨濁り
- 23 梅雨晴や文字より落つるチョコクの粉
- 24 夜店の列途切れて闇やふかみどり
- 25 竜宮城洗つて金魚鉢に戻す
- 26 丹波竜踏みし夏野やわれも歩む
- 27 黒揚羽滑空に翅透きにけり
- 28 民宿の門限十時浜万年青
- 29 ビーチサンダル鼻緒に宿の名くろぐる
- 30 木製ベンチ水着の尻の痕ふたつ
- 31 麦酒（ビア）満たし錫製ジョッキ水滴密
- 32 ヒロシマ白昼油蟬よろぼひ飛び
- 33 生きてわれら暑し暑しと言ひ合へる
- 34 浴衣着てわれに星空近く在り
- 35 ごきぶりの死してむらさきびかりかな
- 36 夕雲や鉤もて寄する貸ポート
- 37 影絵の城に影絵の王や夏ゆふべ
- 38 真青なる薔薇東京は夜に入る
- 39 香水の一滴照るやたなごころ
- 40 昼寝覚醒にありて野の匂
- 41 月面着陸画像白黒夏の果
- 42 黒猫の鼻の墨いろ秋の風
- 43 地球儀に金属（かね）の台座や秋の蟬
- 44 秋澄むや化石の木の葉あかぐるき
- 45 太陽に寿命ありけり草の花
- 46 邯鄲や布のかばんに木の釦
- 47 きちきちや鉄条網の鉄にほふ
- 48 秋雲や地に新旧の電波塔
- 49 都庁なる双塔聳ゆ野分中
- 50 東京タワー丹色あらたや野分過ぎ

- 51 昇りそめ名月の縁ほの朱き
52 望の夜の雲の縁なる濃紫
53 白鍵に十指沈めて良夜かな
54 月の客一人は牛頭（ごず）であるらしき
55 月に躁（さわ）ぐわが細胞や六十兆
56 良夜なり額よりあをき角生ふる
57 月光に微光かへして東京は
58 焼栗の爆ぜて匂ふや夜の駅
59 馬の脚拭きやる少女草紅葉
60 玉くしげ箱根に得たる檀の実
61 錫打ちしごとくに湖や紅葉晴
62 彗星の尾のあをあと虫の秋
63 地球儀叩けば紙の音せり秋燈
64 霧の夜の霧濃き方へ辻馬車は
65 真夜の霧羅紗の匂のありにけり
66 潮鳴りを聴く秋草の丘に坐し
67 みづうみの鷗真白し神の留守
68 羊皮紙のかたさに銀杏落葉かな
69 指笛の鋭く響きたる枯野かな
70 枯野ゆく列車二輛やはなだいろ
71 霜に照り鉄路ひとすぢ果（はたて）無き
72 天頂に天馬の星座野の寒き
73 新雪におのが足跡あをくあり
74 雪原のざらめびかりや日当れば
75 革命のはじめ壁打つ雪礫
76 雪の日の駅舎灯りて琥珀色
77 雪の日の竈出でたる麵麴の香よ
78 銀の紐付きたる天使聖樹に掛く
79 宇宙のはじめ黝き点なり冬薔薇
80 地球紺青火星錆朱や年惜しむ
81 四十六億回目なる初日かな
82 初詣柄杓の木の香あたらしき
83 柗の花より龍の孵りけり
84 未来双六上り月面都市なりけり
85 凍雲の裏なるひかり思ふべし
86 風邪の神くちびる黒し吾をわらふ
87 鏡中に棲み風邪の神うすつぺら
88 海に入る河のさびしさみやこどり
89 細胞分裂細胞死滅寒し寒し
90 着ぶくれ見入るDS画面の戦士が我ぞ
91 欄干に積もりし雪やかまぼこ状
92 融雪剤路面に白し雪とけて
93 見る限り流水群やなほ寄せ来
94 せめぎ合ふ流水群の白に酔ふ
95 流水の押し合ふ形に凍りけり
96 流水の割れて離るる速さかな
97 打ち上げられ流水の裏あをぐるき
98 板張道場拭ききよめたり梅日和
99 紅梅のことに色濃き古木に倚る
100 梳く髪の毛につめたき雲雀かな